

名前：

僕はインターネットがどんなに普及したことで、新聞や雑誌の重要性は多少落したように思っている。でも、ゼロになったことはない、と考える。むしろ、考えた新聞や雑誌の強味は、ここにある。一つ目は、印刷された文章は後で残る、という点だ。インターネットの情報は常に新たに書き直されて、後に残ることはない。このため、我々はインターネットから最終的にどうなるか、たしかに分かるはず。途中経過や臨場感を後になぞって味わうことはできない。こうした傾向は、例えば、インターネットで読む新聞や雑誌にも見えており、我々は思考過程をたどる必要はない。二つ目は、新聞や雑誌には、あたりに前代未聞の新聞や雑誌の内容が全て入っている、という点だ。一方、インターネットでは、我々は同じようなウェブページを読むことになる。興味がある種類の情報しか得ることができない。間違ったウェブページに書かれた重要な情報も、気が付かずに見過ごすことになる。新聞や雑誌は、

何気なくページを開くと、大抵は、月曜日の朝報が、ウェブページでは見ることができない。三つ目は、新聞や雑誌の簡便さである。インターネットには、ウェブや電卓などの必要で、開くのも時間がかかるが、新聞や雑誌は、もともと、素早く情報を得ることができ、この性質は、不平等な子供、他の機械系が苦手な人達にとっても、便利なものであり、欲しい。四つ目は、情報の正確さである。確かに、インターネットでも新聞社が提供している情報は正確であるが、それ以外の情報は、信頼性が低く、誤信しているものも少なくない。この点から、定例として、この会社は、ウェブページ、新聞社、出版社は、信頼性が高い、と感じた。こうした、出版された文章の長所、インターネットの長所を考えたとき、多少はインターネットの簡便さに引かれた人はいるとしても、新聞や雑誌の重要性は、大きくある。

1800字